

平和行動 in 広島 報告

日 程 : 2019年8月5日(月)~6日(火)

参 加 : 14名

1. 平和記念資料館の視察

まず、はじめに参加者全員で平和記念資料館の見学をしました。

2019年4月にリニューアルされており、以前に比べて生活感のある展示になっており、つい数分前まで、普通の生活をしていた広島市民が、原爆投下により一瞬で破



壊されたということがより鮮明にわかる展示となっていました。

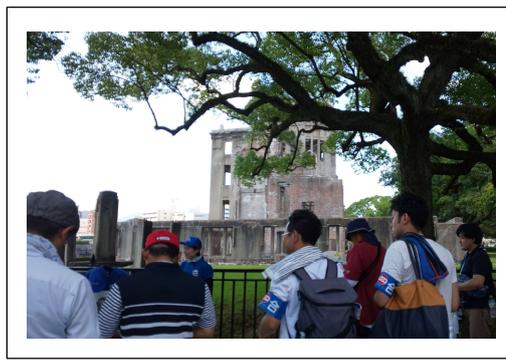
また、発掘により溶けた瓶や衣服などの遺品も追加展示されたのものに加え、個人の写真の下に当時着用していた衣服が添えられ、原爆で亡くなられた方を偲ぶ展示となっていました。

2. 連合ピースウォークへの参加

岐阜はピースウォークグループに参加しました。

原爆ドーム、爆心地、原爆の子の像(折り鶴の碑)などいろいろに慰霊碑を連合広島の青年・女性が中心となってガイドしていただきました。

中でも動員学徒慰霊碑では、多くの学徒が全国から勤労奉仕に動員されており、広島はもとより東海地方(特に静岡・愛知)からも多く動員されており、岐阜県からも1校「恵那中」から広島入りした生徒さんたちが犠牲になっており、若い命が原爆で一瞬にして多く奪われたことに痛ましさを感じました。



3. 連合2019平和ヒロシマ集会への参加



16時30分開会から連合主催の、2019平和ヒロシマ集会日程参加。全員で黙とうをしたのち、逢見会長代行の挨拶と原水禁、KAKKIN、広島県、広島市と多くの来賓に加え国際労働組合総連合のアユウワ・ワバ会長もお越しいただき挨拶をされた。集会の中で高校生平和大使も出席して国連訪問の体験談や未来への決議を聞き、次代の若者にしっかり平和活動が受け継がれていることを

うれしくて頼もしく思った。

この集会には全国の地方連合から、総数2,316人が参加していました。

集会の最後に連合広島の久光会長から次の開催地である連合長崎の森会長へ思いをつなぐ平和フラッグをバトンタッチセレモニーも行われました。

引き続き行われた2020年核兵器不拡散条約再検討会議に向けた平和シンポジウムでは被爆者からの訴えなどを聞き、連合・原水禁・KAKKIN三者による共同決議も行われた。



4. 連合・被爆死没者慰霊式典への参加



会場から原爆ドーム前に移動し、19時50分からの連合・被爆死没者慰霊式典に出席し、全国47都道府県から献水用の水が寄せられ、岐阜からは「高賀の森水」（関市洞戸の水）を持参しました。

献水式は、青年委員会事務局次長の大野準也さん（川重労組）が代表して献水を行った。

そして最期に、参加者全員に白い菊の花が手渡され、原爆死没者の御霊に献花を行いました。

【事務局の感想】

13名の参加者とともに事務局として参加させていただきました。

何度も訪れている広島ですが、今年は特に暑さがすごかったと思います。

前回参加した際に比べて変化している広島の街にまず驚きました。広島駅ビル・街並み・市内電車や地下鉄・球場と数多く新しくなる中で、今年4月に完成した平和記念資料館のリニューアルは最も大きな変化ではなかったでしょうか。

新たに平和資料館に加えられた写真や遺品の数々は、個々に焦点を当てた展示に変わっており、資料館を何度も見学している自分でも、初めて見学したときのように涙があふれてしまいました。

館内の休憩スペースに、被爆者が高齢になる中、貴重な体験談を伝えるビデオコーナーが常設されており、多くの子どもたちが見入っていたのも印象的でした。

原爆の悲惨さは私たち唯一の被爆国日本だからこそ伝えられる言葉と、守る矜持があります。8月6日8時15分に平和記念公園で黙とうを行い、式典に出席して思うことは、平和記念式典とは云うものの大きな葬儀のように感じられ、74年過ぎて街並みは変わっても、今なお遺族の悲しみも原爆の傷跡も癒えていないと感じました。

何度訪れても新たな感じ方や発見があり、より多くの人に「8月6日という特別な日に広島に立つ」という意味を感じてほしいと思いました。